

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターにおけるオリンピック・パラリンピック教育の取り組み：小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育実践

A report of Olympic and Paralympic education in WASEDA Research Center for Olympic and Paralympic Education: Focusing on the practice of Olympic and Paralympic education in elementary school, junior high school, high school, and school for special needs

友添秀則<sup>1)</sup>，深見英一郎<sup>2)</sup>，吉永武史<sup>3)</sup>，岡田悠佑<sup>4)</sup>，根本想<sup>5)</sup>，竹村瑞穂<sup>6)</sup>，小野雄大<sup>7)</sup>，  
青木彩菜<sup>8)</sup>，鈴木康介<sup>9)</sup>

<sup>1), 2), 3), 4), 7), 8)</sup> 早稲田大学スポーツ科学学術院

<sup>5)</sup> 早稲田大学スポーツ科学研究センター

<sup>6)</sup> 日本福祉大学スポーツ科学部

<sup>9)</sup> 中部学院大学スポーツ健康科学部

Hidenori Tomozoe<sup>1)</sup>, Eiichiro Fukami<sup>2)</sup>, Takeshi Yoshinaga<sup>3)</sup>, Yusuke Okada<sup>4)</sup>, So Nemoto<sup>5)</sup>,  
Mizuho Takemura<sup>6)</sup>, Yuta Ono<sup>7)</sup>, Ayana Aoki<sup>8)</sup>, Kousuke Suzuki<sup>9)</sup>

<sup>1), 2), 3), 4), 7), 8)</sup> Faculty of Sport Sciences, Waseda University

<sup>5)</sup> Waseda Institute for Sport Sciences

<sup>6)</sup> Faculty of Sport Sciences, Nihon Fukushi University

<sup>9)</sup> Faculty of Sports and Health Science, Chubu Gakuin University

キーワード: スポーツ庁, オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業,  
オリンピック, パラリンピアン

Key words: JAPAN SPORTS AGENCY, Olympic and Paralympic Empowerment,  
Olympian, Paralympian

### 【抄 録】

スポーツ庁が推進する「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」の委託を受けて、2016 (平成 28) 年 7 月 29 日付で早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター (以下、「早大オリ・パラセンター」) が発足した。平成 28 年度における早大オリ・パラセンターは、岩手県、広島県、熊本県の各教育委員会および各学校と連携して事業をすすめた。

そこで、本稿では、早大オリ・パラセンターが平成 28 年度に行った小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育事業を紹介することを目的とした。日本では、これまで東京 (1964 年)、札幌 (1972 年)、長野 (1998 年) と計 3 回 (夏季 1 回、冬季 2 回) のオリンピック大会、また、札幌を除く計 2 回 (夏季 1 回、冬季 1 回) のパラリンピック大会を開催している。そして、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、夏季大会としては、前回の東京大会以来、56 年ぶりの自国開催となる。本稿において、研究資料という形で、早大オリ・パラセンターの事業を報告することは、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催に向けたわが国のオリンピック・パラリンピック教育の展開を振り返る際の貴重な資料となる点に意義があると考えた。

実践校は計 30 校 (小学校 10 校、中学校 8 校、高等学校 11 校、特別支援学校 1 校) で、オリンピック・パラリンピアンへの派遣は、オリンピックが計 22 校 (小学校 8 校、中学校 4 校、高等学校 10 校)、パラリンピアンが計 8 校 (小学校 2 校、中学校 4 校、高等学校 1 校、特別支援学校 1 校) であった。児童、生徒たちは、オリンピック・パラリンピアンへの講義や実技指導に積極的に参加していた。そのため、アンケートではオリンピック・パラリンピック、さらにはスポーツへの理解や関心の高まりが見られた。また、オリンピック・パラリンピアンへの講義を通して学んだことを、自分のこれからの生活で生かしていこうという意志が読み取れるコメントや、障がい者への理解の深まりや仲間の重要性の認識などが読み取れるコメントも見

られた.

スポーツ科学研究, 15, 1-16, 2018 年, 受付日:2017 年 7 月 27 日, 受理日:2018 年 1 月 22 日

連絡先:友添秀則 〒359-1192 所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学スポーツ科学学術院

tomozoe@waseda.jp